

令和4年度

運営に関する計画

(様式1)

年度当初計画

大阪市立大隅西小学校

令和4年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

(1) 児童数と学級数（特別支援学級を含む）

(2) 学校選択制実施状況

(3) 学力面 令和3年度大阪市小学生学力経年調査より

大阪市学力経年調査の結果は、5年生においてはすべての教科において正答率が大阪市平均・標準化得点の100を超えて上回った。しかしながら、3・4年生は全体的に下回っている。（4年生の社会科は標準化得点100を超えているが）。今回初めての受検となった3年生は全教科の大阪市平均・標準化得点100を下回っている。学力向上委員会を中心として、ふりかえりプリントの活用等を通して、学年や個々の課題を明確にして、習熟度別少人数指導の工夫や個別学習に取り組んできたが成果として表れているところと表れていない結果が見られる。

新学習指導要領の「主体的対話的で深い学びのある学習（学び合い）」は、従来の「教師が教える」中心の授業から「子どもが学ぶ」ことに中心を移すことを示唆している。これはグローバルスタンダードであるし、何より学力向上の一番の近道でもある。学びは本来は一人でするものであるが、現状は一人で学べない子どもは少なくない。そこで、授業中の子どもの「わからない」を大切にし、子ども同士のつながりを活かしながら、子どもの学ぼうとする心に火をつけるような指導で学び合いの授業を構築し、学力を向上させていきたい。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果については、男子は反復横跳び、握力、ソフトボール投げなど4種目が、全国平均を上回った。一方女子は握力、ソフトボール投げしか上回っていない。運動が楽しいと感じている児童は多い。体育の授業や休み時間には、楽しく運動することができている。俊敏性や持久力を高めるために、なわとび週間やかけあし週間を継続して取り組むとともに、体育の授業の進め方についても改善を図っていく必要がある。

中期目標 (令和7年度までに達成する目標)

最重要目標1【安全・安心な教育の推進】

- ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- ②令和3年度と比較し、不登校児童の在籍比率を1%以下にする。
- ③令和3年度と比較し、不登校児童の改善の割合を90%以上にする。

最重要目標2【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。
- ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より10ポイント向上させる。
- ③小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。
- ④小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

最重要目標3【学びを支える教育環境】

- ①ICTの活用に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。
- ②デジタル教材を活用した学習を週3回実施する。
- ③学習者用端末を活用した家庭学習を週3回実施する。
- ④協働学習支援ツールを用いた学習を週3回実施する。
- ⑤教職員の働き方改革に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。
- ⑥年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を30%以上にする。
- ⑦ゆとりの日を月に2回設定・実施する。
- ⑧「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を30%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

最重要目標1【安全・安心な教育の推進】

■全市共通目標(小・中学校)

- ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。(昨年度全国学力状況調査6年生のみ97.5%)
- ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

■学校園の年度目標

- ①年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- ②小学校学力経年調査、学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を昨年度90%以上にする。

最重要目標 2【未来を切り拓く学力・体力の向上】

■全市共通目標（小・中学校）

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。（昨年度32.4%）
- ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- ③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を45%以上にする。（昨年度39%）
- ④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を55%以上にする。（昨年度46%）

■学校園の年度目標

- ①小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- ②小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も0.5ポイント増加させる。
- ③今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び）の平均の記録を、前年度より0.5ポイント向上させる。

最重要目標 3【学びを支える教育環境】

■全市共通目標（小・中学校）

- ①ICTの活用に関する目標を設定する。
- ②デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。
- ③学習者用端末を活用した家庭学習を学期に1回程度実施する。
- ④協働学習支援ツールを用いた学習を月1回程度実施する。
- ⑤教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
- ⑥年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。
- ⑦ゆとりの日を月に1回設定・実施する。
- ⑧「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を20%以上にする。

■学校園の年度目標

- ①ICTを活用した授業を週に3回以上行う
- ②始業式、終業式の実施日の弾力的運用を行う